
令和5年度 福井市文化財保存活用地域計画に関する
第2回ワークショップ報告書

令和6年 1 月

福 井 市

第2回 福井市の魅力を発見するワークショップ

開催概要

- ・開催日時 令和5年11月25日(土)
13時30分～15時30分
- ・開催場所 福井市立郷土歴史博物館
- ・参加者数 13名

2回目となるワークショップは第1回の参加者が集まり、第1回で発掘したこれからも守り伝えていきたいと思う福井市の文化財111件を地区や種別ごとに分類し、福井市の歴史文化の特徴などを話し合いました。



グループワークの様子

1 歴史文化の特徴についての参加者のご意見

ご意見は、概ね歴史的な出来事、自然の恵みによる暮らしに関するものでありました。参加者のご意見を紹介します。

「**継体天皇と古墳群**」 笏谷石や九頭竜川の治水などの伝説がある継体天皇を輩出した越の国は豊かだったと思う。

「**泰澄大師**」 北陸街道を通じて都から宗教や文化が伝わり古代の泰澄大師伝説、荘園関連資料が文殊山周辺に残っている。

「**新田義貞から始まる戦乱**」 福井を戦場とした新田義貞、朝倉氏、柴田勝家の“いくさ”の歴史は、残していきたい。名を残しているのに福井で敗れるのは残念である。

「**戦国大名朝倉氏**」 戦国大名の朝倉氏は日本の歴史上に登場し、その痕跡や伝承など色濃く残り、福井を語るうえで欠かせないものである。一乗谷のみ注目されているが、市内一円に残っている。

「**福井城と松平氏**」 福井城は本丸しか残っていないが、徳川家康の次男の結城秀康の築城とあってその広さや構造は壮大であった。北陸道や城下町、用水の整備を進め、今の福井市の基盤を作っている。

「**江戸時代の偉人**」 幕末には越前松平家を支えた人物が輩出されており、その功績やお墓および生家などを大事にしていきたい。特にお墓などは一般的に知られていない。

「**鉄道の開通**」 明治時代に鉄道ができたことは、産業やまちの近代化にあたってその影響は計り知れない。



グループワークの様子

「戦災・震災」 福井は短期間で戦災と震災の被害を受けたにもかかわらず、復興を成し遂げたことは福井の歴史のトピックである。

「北陸道」 大昔から現代まで文化の往来や交流は、北陸道を通じて行われており、歴史や文化の大動脈である。ここから日本海沿岸や山間部に抜ける各古街道が支脈のように通じている。各地区の人々の交流による文化財や行事、生活など広がりを知るものである。

「織物産業」 戦前から昭和 50 年代まであちこちにハタヤ(織物工場)があって福井の経済を支えていた。織物は、この時代の繁栄を示す建物とかが少なくなっている。

「自然との営み」 日本海沿岸と山間部、平野部で異なる気候や自然環境および交易に基づいた営みが育まれている。信仰や行事および伝統料理など。

「海の恵み」 日本海沿岸部では、海運で他地域との交流による行事や料理が伝わっている。また動植物や鉱物などの資源が多く残されている。福井市の中で海の恵みによる生活・文化圏を作っている。

「郷土料理」 郷土料理はお寺さんの行事やお祝い事などでふるまっていたが、今は核家族化が進み、引き継ぐことが段々少なくなっている。これらの料理は地域の文化や信仰に関わる大事なものだと思う。

「伝統野菜」 古来より栽培しているものある一方、一旦やめたものを復活して栽培しているものもある。栽培農家は少ないが、公民館等で料理教室やレシピを公開し、普及に努力している。昔からの野菜は福井の人の食文化に大きく影響しており残していきたい。

「伝統行事」 左義長や報恩講および神社の祭礼など地区住民に密着した行事が執り行われている。人手が不足して開催も難しくなりつつあり、簡素化している。地区の人を繋げる役割を持ち、その土地の文化を継承していきたい。

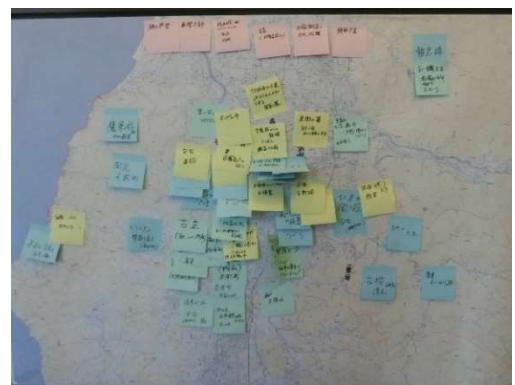
「風景」 故郷を思い描いたときに心に宿る風景は、先人たちが培ってきた文化や歴史が感じ取れるものである。何気ない風景である田園風景や街並みなども、これからは風景の文化財として伝えていきたい。

○地区ごとの文化財のまとめについて

福井市の歴史文化の特徴を踏まえた上で、文化財を地区や種別ごとにあてはめた作業を行ないました。

○ご意見を活かして

今後、福井市の歴史文化の特徴や各文化財のテーマを取りまとめ、福井市の文化財の保存と活用に関する「福井市文化財保存活用地域計画」に盛り込んでいきます。



文化財の設定



グループ発表の様子